LIGHT HOUSE
ライトハウス
〒152-0035 東京都目黒区自由が丘 1-16-13
TEL 03-3717-2711　FAX 03-3717-2721
http://www.lighthouse-jiyugaoka.jp　e-mail gospel@lighthouse-jiyugaoka.jp
郵便振替口座　00120-6-170857　みずほ銀行 渋谷支店 普通 2382850（ライトハウス）

CFI ニュースレター C2023-06 「喜びの油」

[今月の聖書]

☆主なる神の霊が私に臨んだ。これは、主が私に油を注いで、
①貧しいものに福音を宣べ伝えることを委ね、
②私を遣わして、心の痛めるものを癒し、
③捕らわれ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げ、
④主の恵みの年と我々の神の報復の日とを告げさせ、
⑤またすべての悲しむ者を慰め、シオンの中の悲しむ者に喜びを与え、
⑥灰にかえて冠を与え、
⑦悲しみにかえて喜びの油を与え、
⑧憂いの心にかえて賛美の衣を与えさせるためである。
☆こうして、彼らは義のかしの木と唱えられ、
☆主がその栄光をあらわす為に植えられた者と唱えられる。(イザヤ 61：1-3)

「それから、イエスは御霊の力に満ち溢れてガリラヤへ帰られると、その噂がその地方全体に広まった。」(ルカ 4: 14)
「私は命じる、御霊によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たす事は無い。…もし私たちが御霊によって生きるのなら、また御霊によって進もうではないか。」 (ガラテヤ 5: 16、25)
「ただ、聖霊があなた方に降る時、あなた方は力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、私の証人となるであろう」 (使徒行伝 1: 8)

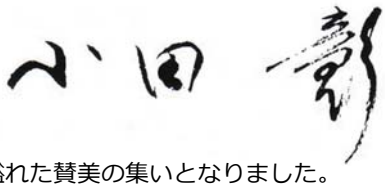
お元気でお過ごしでしょうか。今月は「喜びの油」と題して聖霊の働きについて学んでみましょう。今年は 5 月 28 日がペンテコステ(聖霊降臨日)です。聖霊を求める事は信仰の深みに漕ぎ出すことです。創造主である父なる神、人となり十字架にかかって死んでくださったみ子イエス・キリストと共に、聖書は聖霊の存在について語っています。三位一体と言われる教理ですが、なかなかわかりにくい概念ですね。

しかし、聖霊が身近に語りかけてくださるためには、常に聖霊について考えることが必要です。聖霊を求めて祈るのです。聖書の中の聖霊に関する記述を読んでみることです。また聖霊に満たされた人々の体験を聞いてみることですね。「聖霊が臨む時、あなた方は力を受けます」と復活のイエスは語り、聖霊を待ち望んで祈っていなさいと言いました。今日も、神様はあなたにそのようにおっしゃっています。

今日のテキストであるイザヤ書 61 章には「神の霊に満たされた人」のことが書かれています。新約聖書ルカによる福音書 4 章を見ますと、それがイエス・キリストであることがわかります。聖霊に満たされたお方は、貧しいものに希望を与え、疲れ果てた傷ついたものを癒し、心と体の不自由な縛りの中にあるものを解放し、憂いの心に変えて賛美の歌を与えて下さるのです。「悲しみにかえて喜びの油を与える」とは、暗い顔をした人の表情に、艶やかな輝きを与えると言う意味です。

これは、救い主イエス・キリストの働きを預言していると同時に、救われた者たちの姿を表現しています。この自由と喜びに満ち溢れた人の姿は、皆、聖霊の働きなのです。それは、努力や学習によって得られるものではなく、神がその心の中に聖霊を注いでくださる時に起こる現象なのです。

聖霊は風や、火や、水に譬えられます。まさに風に流されて飛ぶように、炎で溶かされて純粋にされるように、水に身を任せて浮遊するように生きる人生。それは信仰生活の究極です。もしあなたが聖霊によって生きることをさらに修練されるなら、多くの人を癒し、力づけ、神の栄光を表す人となるでしょう。小田彰



(お知らせ)
＊「喜びの歌を共に」が 5 月 5 日、淀橋教会において開かれました。喜びに満ち溢れた賛美の集いとなりました。
9 月 18 日には大阪クリスチャンセンターで開かれます。さらに継続してまいりたいと願っておりますので、次回はぜひご一緒に賛美いたしましょう。

Let's sing 新 Seika　第一回 喜びの歌を共に at 淀橋教会

「正しき者よ、主によって喜べ。賛美は直き者にふさわしい。」(詩篇 33: 1)

5 月 5 日、予報に反して、晴天の初夏の 1 日、心から賛美する人々が淀橋教会に集まりました。予定の 100 名を超えて 111 名が集いました。聖歌隊は 41 名でした。インマヌエル礼拝堂で 2 時間半以上にわたり賛美いたしました。ピアニスト田中恵子さん、オルガニスト飯泉道子さん、ギタリスト池田宏里さん、参加された皆様に感謝いたします。

ご挨拶に立ってくださった淀橋教会主管牧師 峯野龍弘先生は、アフターコロナの教会のリバイバルのために熱く語ってくださいました。峯野先生は高校時代に、「人生の海の嵐に」(248)を知って、「いい歌ですね！」と語りつつ独唱をされたそうです。

この歌を作詞した中田羽後先生は、「人生の海の嵐」と「命拾い」という言葉を教会で歌う聖歌の中に初めて取り入れたと言っておられました。1969 年に「聖歌」が出版される前に、絶望的な日々を過ごされたそうです。都内の有名ミッションスクールの教授を辞められて、関西に向かう東海道線各駅停車で、静岡で長く停車しているときに、1 人の少女が雨の中列車に乗ってきました。雨のためくもった列車の窓に指で絵を描きながら「パラパラ落ちる雨よ雨よ、パラパラパラとなぜ落ちる♪」と歌っていたそうです。なんとそれは中田先生が若き日に作った子供讃美歌でした。あふれ出る涙をこらえて「お嬢ちゃんありがとう」と言って下車し、反対側のプラットフォームに渡り、東京に戻りました。それから 1 年以上かけて、自宅の家具やピアノを売りながら編集制作したのが「聖歌」でした。どんな就職口にも勝って、聖歌を生み出す事は、後の時代に残るものであると確信したのでしょう。

ですから「まさに、人生の海の嵐を経験し、1 人の少女の歌声から命拾いした体験」を表現した曲であったのです。

こんなエピソードを交えながら 16 曲を歌いました。出席者全員が主役でした。その賛美は天に届きました。そして全員が神の栄光の前に跪きました。「聖歌」には、涙と喜びのストーリーがあります。また少なくても、過去 500 年のキリスト教界の偉大な人物の信仰の体験が裏打ちされています。

9 月 18 日には、大阪 OCC ホールにおいて第二回の集いが開かれます。さらにこの賛美のうねりは広がっていくことでしょう。次回はどうぞあなたもご参加ください。そしてこの喜びの渦が多くの人々の心を力づけ、新しい命に満たしますように願っています。　　小田 彰

前　奏
（すべて新聖歌の中より）
18　おお御神をほめまつれ
209　慈しみ深き
ご挨拶　　峯野 龍弘師
交読文 12 詩篇 33 篇（口語訳）
祈 祷　小野島　正彰師
98　緑も深き
428　キリストにはかえられません
21　輝く日を仰ぐ時
303　安かれ我が心よ
248　人生の海の嵐に
休　憩
89　神はひとり子を
120　十字架より叫びきこゆ
108　丘に立てる荒削りの
285　一羽の雀に
429　地の塵にひとしかり
献　金　（この集いのために）
祈　祷
420　雨を降り注ぎ
224　ああ驚くべき
396　慕いまつる主の
63　父、御子 御霊の
祝　祷　三宅　忠雄師

［この集いの直後に寄せられたお手紙から］

＊新聖歌の音符の影にある素敵な音を感じました。大きな声で賛美ができ、心が少々疲れていましたが、元気になり那須に帰りました。また次回を期待しております。(S さん)

＊賛美するうちに、宇宙の創造者であり、人類全体の神であるお方が、どうして、私のような小さなものを認め、愛し、支えてくださるのでしょうか。感謝せずには居られません。(T さん)